



第 55 回

北海道高等学校登山選手権大会

兼第 60 回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会

2016 年 6 月 21 日(火)・22 日(水)・23 日(木)・24 日(金)

長万部岳・狩場山

- 主 催 北海道高等学校体育連盟・北海道教育委員会・北海道山岳連盟
後 援 長万部町・長万部町教育委員会・せたな町・せたな町教育委員会
長万部山岳会
主 管 北海道高等学校体育連盟登山専門部・北海道高等学校体育連盟函館支部
主管校 遺愛女子高等学校
協力校 函館ウ・サール高等学校・市立函館高等学校・北海道八雲高等学校

大会役員

[illegible]

大会実行委員

審査委員長 及川 亮（札幌西）

審査委員	【男 子】	【女 子】
	竹 中 正 喜（旭川北）	今 井 一 穂（江別）
	柴 田 政 二（帯広農業）	細 野 護（旭川北）
	山 納 秀 俊（小樽潮陵）	佐々木 亮 介（札幌北）
	畑 野 和 宏（遠軽）	北 辻 厚 規（市立函館）
	飯 田 一 三（釧路湖陵）	
	松 永 直 樹（函館ラ・サール）	

隊 長	【男 子】	【女 子】
	二 瓶 伸 一（帯広柏葉）	桐 尾 義 之（小樽桜陽）

副 隊 長	【男 子】	【女 子】
	内 海 健 一（室蘭栄）	加 藤 達 夫（岩見沢東）
	相 田 敬 史（旭川東）	西 千 秋（北星女子）

コースパイロット	青 沼 宏（八雲）	松 本 英 宣（渡島森林 管理署熊石森林事務所）
----------	-----------	-----------------------------

サ ポ ー ト	【男 子】	【女 子】
	吉 田 奏 介（八雲）	高 井 勝 巳（旭川工業）
	松 尾 啓 史（市立函館）	中 森 司（高体連 0B）
	川 村 和 男（函館ラ・サール）	鳴 海 健 治（高体連 0B）

通 信	川 村 和 男（函館ラ・サール）	望 月 真（えぞ山道会）
	稲 垣 正 策（高体連 0B）	中 森 司（高体連 0B）
	鳴 海 健 治（高体連 0B）	常 田 貞 彦（遺愛女子）

ペーパーテスト 山 下 文 孝（北星女子）

天 気 図 審 査	内 海 健 一（室蘭栄）	佐々木 亮 介（札幌北）
-----------	--------------	--------------

現 地 本 部	井 上 記 一（遺愛女子）	福 庄 亮 逸（遺愛女子）
	斎 藤 徹（遺愛女子）	十 倉 志 保（遺愛女子）
	日 下 哉（高体連 0B）	常 田 貞 彦（遺愛女子）

大 会 補 助	稲 垣 正 策（高体連 0B）	矢 本 恭 子（遺愛 0G）
	山 岳 部 員（遺愛女子）	

大会事務局

総務	井上	記一	常田	貞彦	福庄	亮逸
競技	常田	貞彦	福庄	亮逸		
輸送	井上	記一	齋藤			
救護	十倉	志保				
記録	常田	貞彦	十倉	志保		
会計	島田	宗人	水野	好子		

開会式

1. 開式宣言
2. 優勝杯返還
3. レプリカ贈呈
4. 大会長挨拶
5. 大会委員長挨拶
6. 審査委員長挨拶
7. 選手宣誓
8. 閉式宣言

閉会式

1. 開式宣言
2. 成績発表
3. 表彰（優勝杯・賞状授与）
4. 審査委員長講評
5. 大会委員長挨拶
6. 閉式宣言

大会の審査要領

1. ペーパーテスト（登山についての基礎知識） 10点（4人の平均点）
2. 行動中テスト（行動中、読図・自然等の、口頭による質問） 5点（4人の合計点）
3. 審査の配点

①体力	30点	②歩行	20点
③装備	10点	④設営・撤収	5点
⑤炊事	5点	⑥気象	5点
⑦計画・記録	5点	⑧マナー	5点

日程表

[illegible]

全道大会コース概要

「道南の山々」

道南の山城は、噴火湾に沿った 120 キロに及ぶ南北に長い地域を、4 つに分けることができる。1 つ目は狩場山周辺、2 つ目は遊楽部岳、雄鉾岳を中心とする道南中央部、3 つ目は駒ヶ岳、恵山、横津岳などの亀田半島、4 つ目は大千軒岳を中心とする松前半島である。最高でも狩場山の 1520m（上記のそれぞれの地域の最高峰の標高は、遊楽部岳が 1277m、駒ヶ岳が 1131m、大千軒岳が 1072m）と他の全道の山々と比べて全体的に低い。

しかし、あなどるなかれ、道南の山々の何と奥深いことか。国道から林道を経て、登山口までが遠い。そして登山口から山頂までが遠い。草いきれと突然目の前をよこぎるキジバト。時折登山道を覆う下草。近くに熊がいるかのような山道の曲がり角。朽ち落ちた階段。土砂崩れで一部が無くなっている登山道。

狩場山や遊楽部岳の山頂に立つと、はるか彼方にきた感じがする。人里からとても遠いのだ。それだけ自然の息吹が強烈に感じられるのである。標高プラス 500m。道南の山が好きでよくのぼる私の率直な感想である。野趣に富んだ道南の山を是非堪能してもらいたい。

「登山第 1 日目 長万部岳（972m）」

1000m に満たないが、その山容はキレがあり、雄々しい。岩肌が見える東斜面は特に迫力がある。昭和 10 年代に亜鉛や鉛が発見され（現在は廃坑）、作業道が整備された。夏山ルートは、この作業道を五合目の鉦山跡まで利用する。（冬山ルートは黄色の標識が設置されているので、見つけて冬山ルートを想像してみるのも楽しみの 1 つだ。）そのため登山道としては、少し物足りなさを感じるかもしれない。七曲がりによばれる作業道は、距離の割に高度が稼げないからだ。道ばたに咲くシラネアオイに目をとめながら、体を慣らしていこう。

長万部岳は後半にみどころがある。休憩ポイントの五合目の鉦山跡からは、作業道を離れ細い登山道に入っていく。高度を上げ稜線に出ると、すばらしい景観が待っている。すっきりとそびえる山頂と遠くに見える太平洋と山並みが登行意欲を高めてくれる。山頂をとらえながら、さらに高度を上げていくと、左下に谷底まで切れ込んだ東斜面を俯瞰しながらの登りとなる。かなりの高度感だ。ザレ場もあるので、足場をしっかりと確保して慎重に登ってもらいたい。

ピークに出ると一旦下って、奥が頂上である。羊蹄山からニセコ連峰、大平山から狩場山、反対側は駒ヶ岳まで一望できる。

「登山第2日目 狩場山（1520m）」

表紙絵 望月 真 氏 画 （前山からみた狩場山）

去年の9月、紅葉が始まった狩場山に登った。山頂で旭川からきた登山客と会ったのだが、話をきくと、3泊4日（車中泊）で道南の山々を回っているという。初日が大千軒岳の知内川コース、昨日が遊楽部岳、そして今日が狩場山の茂津多コースとのこと。道南を代表する三つの山であるが、どのコースも非常に長く、体力を消耗する山なので、その健脚に大変おどろいた。この茂津多コースは片道10キロをこえる長大なコースである。最初は単調で比較的登りやすく、距離のわりに余裕すら感じるのだが、後半にじわりとダメージがくるコースだ。パーティーの持久力が問われるコースといえよう。

狩場山の山名の語源はアイヌ語のカリ・ウシ・ヌプリ（桜・群生する・山）である。800mあたりから始まる台地に桜がところどころ群生しており、由来がうかがわれる。千走旧道コースの廃道にともなって、現在3コース（千走新道コース、真駒内コース、茂津多コース）があるが、千走新道コースが容易で、多くの登山客はそちらを利用している。

茂津多海岸の近くから登るので標高差は大きい。登山口からしばらく歩くとトンネルの上辺りで前方左手に五九三m峰が見える。しばらく広葉樹林帯をすすむと木段があらわれる。登りきるとミズナラ、イタヤカエデなど原生の広葉樹林で覆われる道となり、やがてブナ林がはじまる。さらに進むと少し広場になっている水場に出る。左手に床前川の清流が、涼しげな河音をたてている。休憩ポイントだ。さらに高度を上げるとブナ林から徐々にダケカンバに代わり、標高800mくらいからハイマツがあらわれる。しばらく台地上のだらだらとした単調な道が続く。振り返ると背後に真っ青な日本海が目に入る。前山までの途中にある小沼が不思議な感じがする。カエルの鳴き声が聞こえるかもしれない。しばらく進むと展望が開け、須築川の深い谷が見渡せる。稜線までひと息だ。稜線に出ると、左にオコツナイ岳を見ながら右の稜線をすすむとまもなく前山（1260m）である。

眼前に雄大な狩場山が姿をみせる。力強く端正な姿は見飽きることがない。本峰の前にピークのある山は、胸が高鳴る。これから登る山の全貌が見渡せるからだ。ここからが正念場。一旦稜線を下り、再び300mほど一気に高度を上げていく。体力的にきつい、懐の深い山々を左右に感じながら歩くこの数十分が本大会の核だと考える。味わって登りたい。大岩をこえると頂上はすぐだ。

文責 遺愛女子高等学校 福庄 亮逸

雪氷写真館 ⑬ 北海道渡島半島，狩場山の十字架雪渓 / The Cross of snow on Mt. Kariba in Oshima Peninsula in Hokkaido, Japan



写真 1 狩場山の十字架雪渓 (2014 年 6 月 22 日，今金町神丘にて撮影)。



写真 2 2014 年 6 月 6 日
「井」状の雪渓。

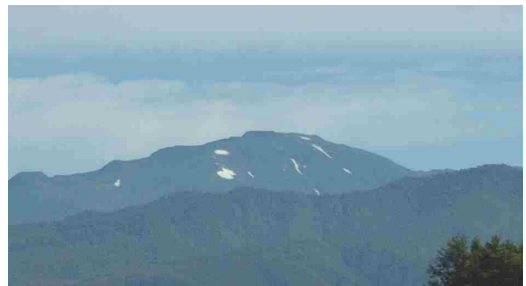


写真 3 2014 年 7 月 21 日十字架雪渓
の消滅。



写真 4 2014 年 7 月 1 日十字架雪渓
の近接状況。

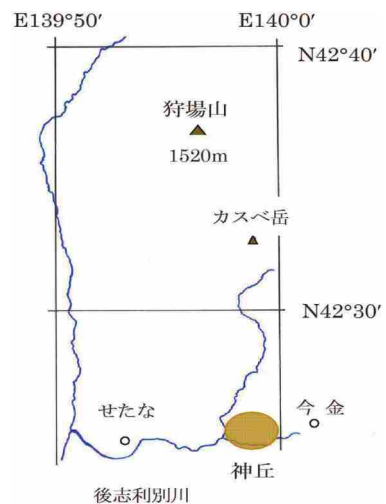


図 1 狩場山の位置，神丘の位置。

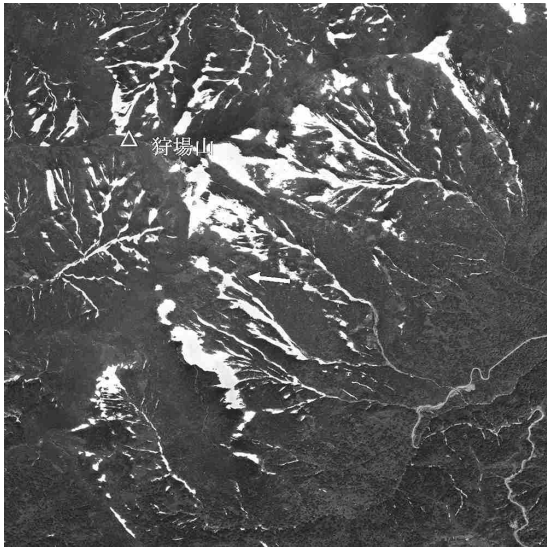


写真 5 空中写真 NK-54-27-1 (1987 年 6 月 24 日) に加筆。
←の先左に十字架雪溪が見える。

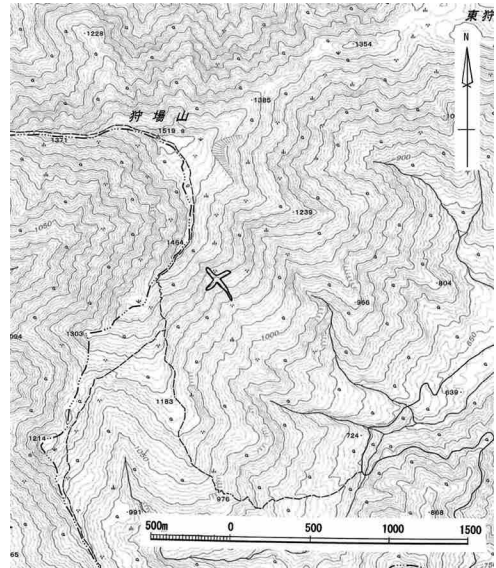


図 2 1:25,000 地形図「狩場山」に十字架雪溪を加筆。

北海道渡島半島，狩場山の十字架雪溪

渡島半島最高峰の狩場山（標高 1520 m）は非常に積雪が多く，初夏にかけて東側斜面や沢沿いには小雪原や雪溪が多数形成される．その中に「十字架」状の雪溪が存在する．狩場山南方出尾根，1464 m 標高点から南南東方向，千走川支流へ向かう沢状地の標高約 1150 m～1300 m に出現する長さ約 300 m，幅 200 m の十字架である（図 2）．1987 年 6 月 24 日撮影国土地理院の空中写真（写真 5）にも十字架雪溪は確認でき，長年に亘って，十字架雪溪は出現していたものと推察できる．

例年全山が残雪に覆われる狩場山は，4 月以降急速に雪解けが進み 5 月になると稜線など一部露出した様子が，せたな町など麓からも観察できるようになる．残雪の連続性が崩れ，5 月末～6 月初旬には「井」状の雪溪を経て，6 月中旬に「十字架」となる．7 月中旬には横バーが消え「1」状に変化してしまう．美しい十字架雪溪は約ひと月のはかない命である．

観察できる場所も限られており，国道 230 号沿い，せたな町・今金町境界の目名橋から今金町神丘地区の東西約 3 km の範囲である．西によると向きが悪く両翼が不明瞭になり，東に移動すると背後の丘陵地や前衛峰の影に入り見ることができない．唯一の観察地ともいべき神丘地区は，同志社の志方之善や日本初の女医荻野吟子らが「神の理想郷」を求めて，この地をイマヌエルと命名した場所であり，この白銀の十字架との結びつきが連想される．

日下 哉（北海道土質コンサルタント(株)）
今金町教育委員会

大会参加校数一覧

支部名	全道大会						支部大会					
	参加校数			参加者数			参加校数			参加者数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
札幌	3	3	6	12	12	24	8	4	12	63	16	79
室蘭	1	1	2	4	4	8	/	/	/	/	/	/
小樽	1	2	3	4	8	12	2	2	4	18	9	27
南空知	1	/	1	4	/	4	/	/	/	/	/	/
旭川	2	1	3	8	4	12	5	4	9	63	24	87
北見	1	2	3	4	8	12	2	2	4	20	15	35
十勝	2	2	4	8	8	16	4	3	7	40	10	50
釧根	1	1	2	4	4	8	3	2	5	21	6	27
函館	2	1	3	8	4	12	3	1	4	28	18	46
計	14	13	27	56	52	108	27	18	45	253	98	351

先輩の踏み跡

全国大会優秀校

回	期 日	会 場	当番高校	優勝校(男)		優勝校(女)
1	1962.7.10～7.12	大雪山系	旭川東	芦 別		旭川東
2	1963.6.29～7. 1	大雪山系	上 川	札幌南	苫小牧東	芦 別
3	1964.7. 2～7. 4	ニセコ連峰	倶知安	旭川東	小樽千秋	旭川東
4	1965.7. 2～7. 4	富良野岳・十勝岳	富良野	増 毛	遠 軽	旭川東
5	1966.6.24～6.26	十勝岳・美瑛岳 美瑛富士	美 瑛	旭川東	増 毛	旭川東
6	1967.6.22～6.24	樽前山・風不死岳 恵庭岳	苫小牧東	旭川東	北見柏陽	旭川東
7	1968.7. 4～7. 5	ウベペサンケ	帯広三条	旭川東	芦 別	旭川東
8	1969.7. 3～7. 5	芦別岳・富良野西岳	芦 別	芦 別	帯広柏葉	芦 別
9	1970.7. 2～7. 4	横津岳・駒ヶ岳	遺愛女子 函館西	標 茶	帯広農業	遺愛女子
10	1971.7. 1～7. 3	大雪山系	旭川商業	芦別工業	旭川東	芽 室
11	1972.6.29～7. 1	知床山系	北見柏陽	旭川東	北見北斗	標茶農業
12	1973.6.28～6.30	十勝連峰	旭川東	深川西	函館有斗	旭川東
13	1974.7. 4～7. 6	天狗岳・余市岳	北海道工業	函館有斗	増 毛	芽 室
14	1975.6.26～6.28	羅臼岳・羅臼湖	標茶農業	標茶農業	増 毛	標茶農業
15	1976.6.23～6.25	夕張岳(日陰の沢)	美唄工業	美唄工業	小樽工業	標茶農業
16	1977.6.22～6.24	天塩岳	士 別	旭川東	北見北斗	標茶農業
17	1978.6.28～6.30	大千軒岳	函館有斗 函館白百合 函館ラ・サール	標茶農業	小樽工業	函館白百合
18	1979.6.28～6.30	室蘭岳・カムイヌプリ	室蘭工業	八 雲	旭川東	函館白百合
19	1980.6.26～6.28	ニセコ連峰	小樽工業	北見北斗		北見北斗
20	1981.6.25～6.27	空沼岳・札幌岳	札幌慈恵	富良野工業	北見北斗	函館白百合
21	1982.6.23～6.25	夕張岳	夕張工業	檜山北		旭川商業
22	1983.6.23～6.25	暑寒別岳・雨竜沼	砂川南	富良野工業	八 雲	北見北斗
23	1984.6.21～6.23	富良野岳・芦別岳	富良野工業	帯広柏葉		北見北斗
24	1985.6.20～6.22	斜里岳・羅臼岳	網走南ヶ丘	東 川	網走南ヶ丘	網走南ヶ丘
25	1986.6.26～6.28	雄阿寒岳・雌阿寒岳 阿寒富士	標 茶	北見北斗		標 茶
26	1987.6.17～6.20	羊蹄山・アンヌプリ チセヌプリ・目国内岳	札幌新陽	小樽工業	北見北斗	旭川東栄
27	1988.6.23～6.25	ウベペサンケ山・ニベソツ山	帯広柏葉	小樽工業		旭川東栄
28	1989.6.22～6.24	駒ヶ岳・狩場山	函館中部 檜山北 遺愛女子	富良野工業	小樽工業	旭川東栄
29	1990.6.21～6.23	幌尻岳・トッタベツ岳	苫小牧東 静 内	小樽工業		旭川東栄
30	1991.6.20～6.22	羊蹄山・目国内岳・雷電山	倶知安	小樽工業	札幌稲西	江 別
31	1992.6.18～6.20	富良野岳・芦別岳	富良野	小樽工業		江 別
32	1993.6.23～6.25	夕張岳	夕張緑ヶ丘実業	旭川東	富良野工業	旭川東
33	1994.6.23～6.25	硫黄山・羅臼岳	北見北斗	旭川東		旭川東
34	1995.6.21～6.23	余市岳・無意根山	札幌稲西	旭川東	富良野工業	札幌南
35	1996.6.27～6.29	沼ノ原・トムラウシ山	帯広農業	札幌南		江 別
36	1997.6.19～6.21	恵山・海向山 白水岳～遊楽部岳	函館東 檜山北 函館ラ・サール	札幌南	札幌工業	北見北斗
37	1998.6.24～6.26	アポイ岳・イドンナップ岳	静 内	旭川東		北見北斗
38	1999.6.17～6.19	十勝連峰	富良野緑峰	札幌南	旭川東	北見北斗
39	2000.6.21～6.23	斜里岳・雄阿寒岳	釧路湖陵	札幌南		北見北斗
40	2001.6.20～6.22	羊蹄山・ニセコ山系	小樽潮陵	札幌南	札幌工業	旭川東
41	2002.6.26～6.28	美唄山・樺戸山地	美唄工業	札幌工業		北見北斗
42	2003.6.25～6.27	知床硫黄山・羅臼岳	北見北斗	北見北斗	札幌南	札幌南
43	2004.6.23～6.25	十勝幌尻岳・伏美岳 ピバイロ岳	帯広農業	江 別		北見北斗
44	2005.6.22～6.24	無意根山・羊蹄山	札幌南	札幌南	江 別	八 雲
45	2006.6.21～6.23	白水岳・狩場山	函館ラ・サール	札幌南		八 雲
46	2007.6.20～6.22	ペンケヌーシ岳 チロロ岳	静 内	札幌南	北見北斗	北見北斗
47	2008.6.25～6.27	美瑛岳・旭岳	旭川東	旭川東		北見北斗
48	2009.6.24～6.26	斜里岳・雄阿寒岳	釧路湖陵	旭川東	札幌北	旭川東
49	2010.6.23～6.25	神威岳・烏帽子岳 札幌岳・空沼岳	札幌稲西	札幌北		旭川東
50	2011.6.21～6.24	岩内岳～目国内岳 羊蹄山	小樽桜陽	札幌北		旭川東
51	2012.6.26～6.29	ピンネシリ 南暑寒岳～暑寒別岳	岩見沢東	札幌北		北星学園女子
52	2013.6.25～6.28	斜里岳 羅臼岳	遠軽(協力校:北見北斗)	北見北斗		旭川東
53	2014.6.24～6.27	ウベペサンケ山・ニベソツ山	帯広柏葉	帯広柏葉		帯広柏葉
54	2015.6.23～6.26	風不死岳 樽前山 羊蹄山	札幌西	旭川東		旭川東
55	2016.6.21～6.24	長万部岳 狩場山	遺愛女子			

全道高校体育大会参加における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて

北海道高等学校体育連盟
平成 28 年度全道高校体育大会当番校

北海道高等学校体育連盟及び平成 27 年度全道高校体育大会当番校は、大会参加申込書等を通じて取得される個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下の通り対応します。

1 参加申込書に記載された個人情報の取り扱い

- (1) 大会プログラムに掲載されます。
- (2) 競技場内でアナウンス等により紹介されることがあります。
- (3) 競技場内外の掲示板等に掲載されることがあります。

2 競技結果（記録）等の取り扱い

- (1) 当番校が認めた報道機関等により、新聞・雑誌及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2) 大会プログラム掲載の個人情報とともに、当番校が作成する大会報告書（以下報告書という）に掲載されます。
- (3) 新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等は、次年度以降の大会プログラムに掲載されることがあります。

3 肖像権に関する取り扱い

- (1) 当番校が認めた報道機関が撮影した写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2) 当番校が認めた報道機関が撮影した映像が中継または録画放映及びインターネットにより配信されることがあります。また、DVD 等に編集され、配付されることがあります。
- (3) この他、北海道高等学校体育連盟の許可に基づき、記念写真等が販売されることがあります。

4 当番校としての対応について

- (1) 取得した個人情報を上記利用目的以外に使用することはありません。
- (2) 参加申込書の提出により、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきます。
- (3) 大会役員、競技役員、運営委員、その他各種委員や補助員、当番校と大会に関する契約をしている者、大会運営関係者及び会場にいられた観客の皆様につきましては、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきます。
- (4) 記念写真等の販売について業者から直接当番校へ問い合わせがあった場合は、一括道高体連事務局で対応しますので業者へご連絡ください。
- (5) 個人情報等の掲載または公開等に関してのご質問は、北海道高等学校体育連盟事務局までご連絡ください。

連絡先・問い合わせ先
北海道高等学校体育連盟事務局
011-826-3300

祝

第 55 回 北海道高等学校登山選手権大会
兼

第 60 回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会

2016 年 6 月 21 日～24 日

長万部岳・狩場山

北海道・山・店 秀岳荘

<http://www.shugakuso.com>

